



Arai News

(株)新井広武 〒330 埼玉県大宮市東町2-12 ☎0486(41)3825-7

オーストラリアグランプリ、金谷ぶっちぎりの優勝!!

●3月24日から26日までの3日間、オーストラリア最大のモーターサイクルイベント、オーストラリアグランプリが代理店のスポンサーによりバザーストのMtパノラマサーキットに於て開催された。このイベントにはオーストラリア全土から500名以上の参加者があり数万の観客と一体になって素晴らしい盛り上がりを見せた。

●一周6.2kmのサーキットは傾斜のきつい峠道と2kmの下りストレイトを組み合わせたひどく荒っぽいもので、安全性、路面の状態等はお世辞にも立派とはいえないが、ロードレース本来の面白さ、観客と一体になって盛り上がる楽しさという点では、日本には見られない素晴らしいものがあった。

●メインレースは排気量無制限の30周で、日本からヤマハファクトリーの金谷秀夫、アメリカからはAMAのスーパーバイクでも大活躍のウェス・クーリー、そして二輪にカムバックのマイク・ヘイルウッド等を迎えて行なわれた。結果はTZ750の金谷がスタートから飛ばしてぶっちぎりの優勝であった。

●なおこのレースを機会にAraiをかぶる選手の一人となったウェス・クーリーも、安全圏で2位をキープしていたが、残り数周という所でチェーンのジョイントが飛び、おしくもリタイアした。彼の車もTZ750であった。



'78富士グランチャンピオン第1戦

星野選手、パーフェクトで優勝!!



●3月26日、快晴の富士スピードウェイでグランチャンシリーズの第一戦が行なわれた。このレースはシリーズ初のこころみである3ヒート制で、10周、20周、30周のヒートの得点を総合して優勝を争うものである。

このレースでも好調の星野一義は、3ヒートとも全てぶっちぎりのパーフェクトで優勝した。

●レースの公式予選は25日に行なわれ、そのタイムにより26日のスターティンググリッドがきめられたが、星野選手はやはりポールポジション。また星野選手を頭とする1、2、3を含めベスト6の内5名はArai着用者。そしてレース結果においても上位入賞の半数以上はArai着用者であった。

●グランチャンシリーズの第2戦からは、高橋国光選手もエントリーすること。星野一義の独走にストップをかける意気込み充分でシリーズを盛り上げてくれることだろう。

浅見貞男デイトナ始末記

浅見貞男の海外第一戦は3月

12日のデイトナ200マイルであった。

このレース、残念ながら7位に終わってしまったが本人よりの言いわけは次のとおり。

「AMAは今年から直径23mmの吸気制限プレートの使用を義務づけた。充分なテストも出来ぬままプレートの前後をシリコンゴムで盛った自作マニホールドを持って乗り込んだがこれが熱でふくれてしまい使いものにならず、急ぎよアルミ製のパーツを間に合わせに取り付けてのレースとなった。このためセッティングはメタメタで予選はやっとこの13位。しかし本番までには何とかきめ、2/3時点では4位までに上り3位はいただきという所だった。ところが、2度目の給油の時、給油タンクにテープでまいたホースがはずれてTZ750はガソリンびたし。火がついてはおしまいなのでエンジンをとめてガソリンをふきとってからスタートしたがこれで2分間、1周分のロス。つまりミスで上位入賞を逃し申しわけない」とのこと。次のイモラではがんばるそうです。

●なおデイトナ200マイルでは、スキップ・アクスランドがロパーツ、セコットに続いて3位に入り、浅見にかわってAraiライダーの面目を保った。

●デイトナ200はアメリカのモーターサイクルのお祭りの中心イベントで、同時に多くのダートイベントも開かれた。ここでは若きAraiのエース、テッド・ブーディーが大活躍したとのこと。